

「安楽死も考えた」…妻の苦悩

高次脳機能障害

読者の反響①

脳卒中や交通事故などで脳を損傷した人に、記憶力や注意力の低下、感情をコントロールできず怒りつづくなるなどの後遺症が生じる「高次脳機能障害（高次脳）」について、1月13日付医療面で紹介したところ、読者からさまざまな反響が届いた。家族や当事者の思いを2回に分けて紹介する。

「おどろ明くて面白かった。高次脳になった夫は、キレやすい性格になりました」福岡市で暮らす60代女性、切実な思いを寄せた。60代の夫が高次脳となったのは12年前。県外の大学病院で心臓のカテーテル検査を受けた際、脳に血栓が詰まり、脳梗塞を発症したのがきっかけだ。2カ月の入院を経て職場復帰したものの、性格が一変し、さいなみなどで声を荒らげるようになった。

エスカレートしたのは9年前。自慢で暴れる夫に「どうしたの」と声を掛けると、頭部を思い切り殴られた。女性が気を失っていた約1時間、夫はただテレビを見ていた。女性は耳が聞こえてくらくらなり、今も目まいや頭痛に悩み、薬を服用している。

以後、夫はたびたび手を上げそうになる。女性は夫と二人だけの生活におびえ、心的外傷後ストレス障害（PTSD）や不眠症を発症。「苦しみから逃れた夫婦でオムツ女に行き“安楽死”を希望しよう」と話し

たこともある。高次脳夫への周囲の接し方も変わっていった。職場では露骨な嫌がらせや無視をさし、一部の親族も「身内の恥」と遠ざかった。夫に身代わりの家族が集まり、気が済むまで話をし合える場が欲しい。

「おどろ明くて面白かった。高次脳になった夫は、キレやすい性格になりました」福岡市で暮らす60代女性、切実な思いを寄せた。60代の夫が高次脳となったのは12年前。県外の大学病院で心臓のカテーテル検査を受けた際、脳に血栓が詰まり、脳梗塞を発症したのがきっかけだ。2カ月の入院を経て職場復帰したものの、性格が一変し、さいなみなどで声を荒らげるようになった。

エスカレートしたのは9年前。自慢で暴れる夫に「どうしたの」と声を掛けると、頭部を思い切り殴られた。女性が気を失っていた約1時間、夫はただテレビを見ていた。女性は耳が聞こえてくらくらなり、今も目まいや頭痛に悩み、薬を服用している。

以後、夫はたびたび手を上げそうになる。女性は夫と二人だけの生活におびえ、心的外傷後ストレス障害（PTSD）や不眠症を発症。「苦しみから逃れた夫婦でオムツ女に行き“安楽死”を希望しよう」と話し



高次脳機能障害 外見上は症状が分かりにくく、「見えない障害」といわれる。当事者の言動が周囲に理解されず「吐き出しつせき」や誤解を受けることもある。当事者数は全国で推計30万〜50万人。厚生労働省によると、医療機関や介護施設などの「支援拠点機関」は全国13カ所（昨年6月現在あり、相談に応じる「支援コミュニティネット」は約300人が配置されている）

BOX

高次脳機能障害の夫を支える女性は「障害への世間の関心は薄く、孤独を感じています」と話した

「悩み、一人で抱え込まずに九州各地に家族会

九州にある主な高次脳機能障害の家族会

九州高次脳機能障害者協会 090(7792)16520

高次脳 当事者 出し、怒り見られる前のま 負担も重なりやす 事責だけ アの必要 NPO 能障害者 の古謝（ によると 傷からど したかに